

令和8年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両立を実践できる生徒」を育成する。</p> <p>「当たり前のことが当たり前に見える」を基本とする生徒指導を通じて、「規範意識の高い生徒」を育成する。</p> <p>学校生活のあらゆる場面で、自己の目標に粘り強く向き合う姿勢を養うことで、「忍耐と努力を自らに課せる、自律した生徒」を育成する。</p> <p>持続可能な社会に向けて、地域と結びついた安全・安心な学校を築き、「自他共に危機管理意識の高い生徒」を育成する。</p>	<p>生徒は基本的な学習習慣に基づき、自律的に行動することができた。学校行事においては、工夫・改善を進め、行事に対する生徒の満足度を高めることができた。目的や育成すべき力をより意識して、主体的・創造的に物事に取り組み、他者と協働して行動できる力の更なる向上を図ることが課題となる。</p> <p>また、社会環境の変化に順応しつつ、生徒一人ひとりの内面に寄り添った丁寧な関わりを進めていくことも今後の課題となる。</p> <p>学校における学習環境の確保については良好な状況にあり、学習活動の維持・向上に対してよい影響を与えている。学習や進路に関する生徒の目標実現に向けて、学習指導や情報提供について一層の充実を図ることが課題となる。</p> <p>また、生徒に高い目標を持たせ、その進路実現に向けて粘り強く取り組む学習集団を形成していくことが課題となる。</p> <p>高い部活動加入率を維持しており、全国大会出場をはじめとして、それぞれの部において活動目標に沿った実績を残すことができた。</p> <p>部活動全体の活性化を図りつつ生徒が学習と部活動を両立できる時間の確保に努め、計画的で効率的・効果的な指導方法の研究及び環境の改善を一層進めることが課題となる。</p>	<p>「もう一歩先」を意識した取組の推進</p> <p>学習活動、学校行事、部活動等の教育活動全体を通じて「規範意識の高い生徒」を育成し、本校での高校生活で得られる充実した体験機会の創出に取り組む。</p> <p>基本的な生活習慣や規律ある学校生活を確立させ、自他の尊重や安全・安心、自主性や主体性及び協働の喜びを養う生徒指導を行う。</p> <p>学習内容の確実な定着とともに高い目標の実現に必要な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成する学習指導を行う。</p> <p>社会との関連を重視して自らの在り方生き方を展望し、将来の夢や志を育みながら希望進路の実現に向けたキャリア教育を行う。</p> <p>生徒一人ひとりの成長段階やニーズに寄り添えるよう、個別支援の充実を進め、学習面・生活面とも、きめ細やかなサポートを行う。</p> <p>「部活動に係る活動方針」等を踏まえ部活動の充実・向上を図り、高いレベルでの「学習と部活動の両立」を推進する。</p> <p>教育活動や業務に関する知見を踏まえ、健康で安全に過ごすことができる環境を構築し、安心して過ごせる学校の実現を図る。</p> <p>広報活動を充実させ、本校における活動についてホームページや説明会等を通じて積極的に発信する。</p>

令和8年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階)

【領域編】

<教務部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
教育課程	教育課程に基づいた組織的・計画的な教育活動の質の向上	◆コースに応じた文理・科目選択については、生徒が自身の進路希望等を踏まえて検討できるような日程を設定し、三者面談等を通して、生徒・保護者等と情報を共有し、丁寧な支援を行う。				
		◆開かれた教育課程を念頭に、各教科等と連携し、外部機関や家庭・地域との連携及び協働を深めながら教育活動の質の向上に努める。来年度から実施される新教育課程が円滑に実施できるよう、教科間の連携を強化する。				
学習指導	主体的対話的で深い学びの実現に向けた、授業改善	◆研究公開授業については、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善を進めるための取組として実施する。教職員が相互に学び合う機会を確保し、各自が計画的に研究・公開授業に取り組む。				
		◆総合的な探究の時間においては、各教科・科目で身に付けた知識や技能を活用しながら、物事を多面的に捉え、考察する力の育成を目指す。また、取組内容について、定期的に点検・振り返りを行い、より効果的な指導につながるよう改善を重ねていく。				
学習支援	個に応じた支援体制の充実	◆生徒一人ひとりの成長段階や多様な状況に応じた支援の充実を図るため、学年部および関係分掌と連携を図りながら、組織的に取り組む。状況に応じて、関係分掌と適切な情報共有を行い、状況の把握に努めるとともに、必要に応じて学習や授業面での支援につなげていく。				

<生徒指導部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識や人権意識の確立	◆基本的な生活習慣の定着を図るため、心のこもった挨拶、思いやりのあるマナー、清潔感ある身だしなみの指導を日常の学校生活の中で継続して行う。その中で、価値観の多様化を踏まえて一人一人の内面に寄り添いながら対話的な生徒指導を進める。				
		◆高い人権意識と規範意識を育成するために学校行事等を活用して、周囲への心遣いや思いやりの心を育む。あわせて、SNS投稿の危険性への理解を深め、被害者にも加害者にもならない意識を育てデジタル機器の適切な扱い方について段階的に指導を行う。				
	学校行事や校則の見直し	◆スポーツ大会の午後の部では新種目を導入し、文化祭では学年ごとにクラスや仲間と協力する取り組みを行う。学校行事は日々の学校生活の延長として位置付け、仲間と力を合わせて最大限努力する中で、生徒一人ひとりが達成感や心からの感動を実感できる機会を充実させる。				
		◆教職員や保護者、生徒、地域の意見を踏まえながら校則やマナーの見直しに取り組み、生徒がより良い学校づくりに主体的に関わる姿勢を育てる。また、自律した生徒を育成するために教職員が連携して学校生活の学習、行事の場面で一貫した指導を行う。				
	安全・安心な学校づくり	◆命を大切にする姿勢を育てるため、交通ルールの遵守や交通マナーの指導を行い、時間に余裕のある生活習慣づくりを促す。				
		◆いじめ防止では、生徒一人一人の人権を尊重し、未然防止・早期発見・迅速な対応を基本に、生徒に対してきめ細やかなサポートや教職員間での確実な情報共有を行う。日常の生徒指導を通して生徒との関わりを大切に、安心・安全に過ごせる学校づくりを進める。				

<進路指導部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
進路指導	生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくための指導の充実(キャリア教育)	◆講演会・ガイダンス・資料配布等を通して生徒自らが在り方、生き方を考える機会を増やし、人間関係形成・社会形成能力を育成する。				
		◆生徒が自らの役割や価値を認識できるよう、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる「キャリア教育」を充実させる。				
	生徒が主体的に自らの進路を考えたり、進路選択に対するモチベーション高めたりするためのガイダンスの充実(進路保障)	◆就職・公務員希望生徒の希望を100%達成するため、早期からのガイダンス・補講・適性検査等を実施し、社会人基礎力を育成する。				
		◆生徒によって異なる進路希望に対応できるよう、入試制度等の情報を積極的に発信し、生徒が早期から進路目標を設定できるよう促すとともに、保護者にもその理解と共有を図る。				
		◆生徒が主体的に学習できる環境を提供し、生徒個々が自己の目標に向かって粘り強く取り組む学習態度を育成する。				
		◆生徒が自らの進路希望に対して何をすればその目標へ近づけるかを意識できるような目安を提示し、進路選択に対するモチベーションの向上を図る。				

<保健部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
健康安全教育	感染症への理解と予防、感染拡大抑制に対する意識の育成	◆CO ₂ モニターの等の状況を踏まえ、換気の徹底や手洗い等、感染症に対する予防と行動啓発を呼びかける。				
	生徒の心身に関わる様々な課題や特性に対する教職員の意識と対応力の向上	◆きめ細かな健康観察から、生徒の状況を的確に把握し、健康や悩みについての相談やスクールカウンセラーによる支援により、心の健康問題に適切に取り組む。				
		◆日常の生徒観察を重視し、学年部やスクールカウンセラー等と連携し、相談しやすい環境づくりに取り組む。				
		◆「気になる生徒」の情報を教科担当者・学年部とで共有し、関係分掌や教育相談会議との連携を図り、生徒の心の変化に対して早期に援助する。				
心身の発育・発達や性に関する内容について理解し、危険を回避する能力の育成	◆生徒が性についての正しい知識を身につけるとともに、男女の性差を理解し、適切な意思決定・行動選択ができるように健康教育を行う。 ◆食に関する専門的な知識を身につけ、自らの健康の保持増進への意識を高め、今後の生活に役立つ力を身につけるように食育をする。					
	◆保健体育科や部活動顧問と協力して、怪我等が起こる状況・要因を生徒に伝え、危険な行動を慎み、安全な日常生活を過ごせるように生徒を促す。					
学習環境	校内美化意識の確立と校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月1回の大掃除を通じ、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちでつくり出せるよう努めるとともに、清掃指導にあたる教職員の意識の高揚を図る。				
		◆環境・保健委員会が行う清掃点検やゴミ分別点検調査等を通して、清掃状況やゴミの分別状況を確認し、校内美化やゴミ分別の徹底に努める。				

<図書・総務部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
図書館運営	読書活動の推進	<p>◆「読書は、他人の人生を自分の経験に変える、最高の学びである。」ということを生徒に伝えたい。「図書館だより」、読書啓発冊子「文字渦」、新着図書の紹介等の広報活動により図書館に興味を持たせるとともに、ホームルーム活動や授業を通して読書活動を推進する。</p> <p>また、可能な限り部活動との連携を図り、読書活動の活性化につなげる。その一つの方策として、12月に読書週間と関連付けて、「Book Forest Festival」を開催し、より多くの生徒が読書に目を向けるきっかけとする。</p>				
	図書館利用の充実	<p>◆蔵書のデータベース化を推進する。</p> <p>公共図書館の団体貸出の積極的な活用、図書館の更なる環境整備を通し、生徒の図書館利用の促進に努める。そして、とりわけ生徒への図書の貸し出しの促進を目指す。</p> <p>また、図書委員会活動の活性化を図り、各学期ごとに、さまざまなイベントを計画していく。</p> <p>さらに、多様な価値観を尊重し、生徒一人ひとりのニーズに応えられるような図書館の在り方を考えていく。その一つとして、図書館が「教室」と「保健室」の間の役割を果たす場となるよう、検討を進める。</p>				
家庭・地域社会との連携	魅力ある学校づくりの推進および広報活動・情報発信の推進	<p>◆プロジェクトを通じて、西城陽高校の特長や課題を改めて整理・把握し、大切にしていける本校の特長と改善を要する点について検討する。また、それらを学校公開・説明会やホームページ等を通して、中学生やその保護者に分かりやすく、かつ的確に伝える。中学生に本校の特長が十分に伝わっていない場面も見られることから、教育内容や学びの姿が、より分かりやすく伝わる発信の工夫についても検討する。</p>				
	信頼される魅力ある学校づくりの推進	<p>◆プロジェクトや学校生活評価アンケート等を通して、学校の課題や生徒の実態を把握し、その結果を踏まえ、学校改善に生かす取組を進める。</p>				
		<p>◆全教職員協力体制で、保護者や来校者への丁寧な対応を行う。</p>				
学校とPTAとの連携	<p>◆積極的にPTA運営に協力し、PTAの各活動・行事に対する保護者等の参加を促す。</p>					

<第1学年部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
生活指導	基本的な生活習慣の確立	◆質の高い学校生活を送ることを目指し、時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといった基本的な生活習慣について丁寧に指導する。				
		◆日々の清掃活動・周辺の整理整頓を通して感性を磨くとともに、自分たち自身の学びの環境を整え充実させることで、クラスや学校への帰属意識を高める。				
		◆生徒の変化や問題事象に早期に対応できるよう、生徒を観察し、教員間及び分掌等の組織間の連携を密に図り、保護者とも連携しながら、課題の解消に向けて組織的に取り組む。				
学習指導	学習習慣の定着と基礎学力の育成	◆家庭学習習慣の定着と深化を目指し、自ら計画して実行する力を育成する。学習記録の活用と定期的な面談を通して、主体的な学習姿勢を育てる。				
		◆タブレット端末を学習ツールの一つとして、有効に活用し、個々の生徒の学習意欲を高め、学習内容の更なる充実を図る。				
		◆進路指導部・教科担当者と連携を図り、基礎学力の向上を目指す。模擬試験で国数英の3教科で現状より1つ上を意識させ、具体的な学習方法の提示や動機付け、受験後のフォローを行う。				
	部活動および特別活動への積極的参加	◆部活動や生徒会活動への積極的な参加を促し、活動を通して自己の成長と、集団へ貢献する意識を高められるように指導していく。				
◆生徒が自ら考え、様々なことに挑戦できる環境を作る。ホームルーム活動や学校・学年行事などで生徒が主体的に企画・運営する場面を作り出し、充実感や達成感を味わえる機会を増やしていく。						
進路指導	進路目標に取り組む姿勢の涵養	◆個別面談を定期的実施することで、進路の方向性や可能性について深く検討する機会を増やし、個々の進路意識の向上を促す。				
		◆進路指導部との連携を図り、進路情報の提供と充実した進路学習の取組を実践する。				

<第2学年部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
生活指導	基本的な生活習慣の定着	◆時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといった当たり前のことが上級生として1年生の見本になるように指導していく。				
		◆学びの環境を自分たちで整え、自分の課題が発見できる状態を保つという意味で、清掃活動や整理整頓をすることの意義について、生徒が理解を深められるよう日頃から指導する。				
		◆生徒の精神的な変化に早期に対応できるよう、生徒をしっかり観察し、保健部や教科担当と連携を図りながら、課題の解消に向けて組織的に取り組んでいく。				
学習指導	学習習慣の定着と学力向上意識の伸長	◆家庭学習習慣の定着の重要性を理解し、学年+1時間という家庭学習時間を意識させる。また、部活動との両立の実践方法を提示し、学習時間を確保するよう指導する。				
		◆タブレット端末を学習ツールの一つとして、有効に活用し、個々の生徒の学習意欲を高め、学習内容の更なる充実を図る。				
		◆教科担当者と連携を図り、模擬試験での結果から学力向上の必要性を意識させ、GTZでB1以上を意識する指導を継続して行っていく。				
	部活動および特別活動への積極的参加	◆部活動や生徒会活動などに主体的に取り組む素養を養う。また、活動を通して強い充実感や達成感が味わえる機会が増えるよう指導する。				
◆学校行事やホームルーム活動、研修旅行においてチームワークを大切にする集団を作り、充実感、達成感を味わう機会を増やす。						
進路指導	進路目標に取り組む意欲の向上	◆個別面談、保護者等を含む三者面談等を充実させ、個々に応じた適切な進路実現を目指す。				
		◆進路指導部との密なる連携をはかり、進路情報の提供と充実した進路学習の取組を実践する。				
		◆自分の進路について深く考える機会を増やせるように工夫し、個々の進路意識の向上を促す。また、学習指導とも結びつけ、進路実現に向けた学習意欲の向上を促す。				

<第3学年部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
生活指導	基本的な生活習慣の確立	◆時間を守る、身だしなみを整える、笑顔でさわやかな挨拶ができるといった当たり前の事を自然体でできるように関係分掌と連携を図りながら継続して指導していく。				
		◆学びの環境を自分たちの手で作り上げる高い意識を持った清掃活動を行えるように支援し、清掃活動を通して、責任感や公共心などの望ましい態度を身につけられるようにする。				
		◆生徒の精神的変化に早期に対応し、保健部や各教科担当と連携を図りながら、課題の解消に向けて組織的に取り組んでいく。				
学習指導	学習習慣の定着と基礎学力の育成	◆計画性をもって学習に取り組めるよう促し、自発的な学習習慣の定着によって、個々が望む進路実現を目指す。				
		◆授業の予習、復習、また模擬試験等の復習を自発的に行う習慣を身につけさせることにより、受験を見据えた基礎学力の定着を図る。				
	部活動および特別活動への積極的参加	◆部活動や生徒会活動において、最高学年として中心的立場である自覚を持たせるとともに、満足感、達成感が得られる結果が出るよう、最大限の環境作りやサポートを行う。				
		◆学校行事やホームルーム活動を通して集団の一員であるという意識を持たせ、社会性を養う。				
進路指導	進路目標に取り組む姿勢の涵養	◆生徒一人一人のニーズに寄り添えるよう、個別支援の充実を進め、きめ細やかなサポートを行う。				
		◆進路指導部との連携を図り、充実した進路情報を提供する。特に進路情報が保護者にも、しっかりと伝わるように工夫していく。				

<事務部>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
教育環境の整備	コースの特色化に寄与する学校設備・備品の充実	◆ヒアリングを行い、教員との連携を十分に取りながら、各種事業の取組において効果的な予算執行に努め、質の高い教育環境づくりをめざす。				
	本校の魅力や特色についての積極的な発信	◆学校案内等のパンフレットやチラシ作成等の広報活動において、教員と連携し、より効果的な予算執行をめざす。				
	生徒の就・修学支援の充実	◆学校と生徒・保護者間のコミュニケーションツール等を活用して、就・修学支援制度を漏れのないよう周知する。 ◆各種支援制度について、丁寧な案内と対応を心がけ、授業料、諸費等徴収事務及び各種奨学金事務を円滑に実施する。				
	安全で学習しやすい環境の整備徹底	◆ICT環境について実態に合わせて、校内教育環境の改善整備を進める。 ◆定期的に校内安全点検を行い、不良箇所の早期発見に努めるとともに、教職員間の連絡調整を密にし、優先順位を決め、安心安全な環境整備を計画的に行う。大がかりなものは所管課に状況説明と経費の要望を行う。				
情報管理	文書・情報管理の徹底	◆通知文書等の情報管理を行い、情報の共有化と管理の徹底を図る。 個人情報取り扱いについては、保管庫で施錠管理する等、慎重に適切に行う。				

(評価の基準 A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった)